

平成27年度病害虫発生予察注意報第7号

平成28年3月1日
愛知 県

作物名：タマネギ
病害虫名：べと病

- 1 発生地域 県内全域
- 2 発生程度 多い
- 3 注意報発表の根拠

- (1) 2月下旬の巡回調査(18ほ場)の結果、発病株率0.5%(平成0.01%、前年0%)、発生ほ場率16.7%(平成1.1%、前年0%)で、過去10年間と比較して発病株率、発生ほ場率とも最も高い。
- (2) 名古屋地方気象台2月25日発表の1か月予報によると、向こう1か月の気温は高く、降水量は平成並か多い見込みで、本病の発生に好適な条件である。
- (3) 前年4月下旬の巡回調査では、発生ほ場率が37.5%(平成19.0%、前年38.9%)と過去10年間と比較して2番目に高く、多くのほ場で本病原菌の密度が高まっている。

4 防除対策

- (1) 発病株は周辺株だけでなく、周辺ほ場への感染源になるので、見つけ次第抜き取り、ほ場外へ持ち出し適切に処分する。
- (2) 表を参考に予防的な防除に努める。また、発生を確認した場合は、治療効果のある薬剤で防除する。降雨後は速やかに薬剤防除を行う。
- (3) 薬剤の使用に当たっては、薬剤感受性の低下を避けるため、作用機構が同じ薬剤の連用を控え、異なるFRACコードの薬剤をローテーションして使用する。

表 タマネギべと病に対する主な防除薬剤

薬剤名	成分名	FRACコード	効果
ジマンダイセン水和剤	マンゼブ	M3	予防
ダコニール1000	TPN	M5	予防
ヨネポン水和剤	ノニルフェノールスルホン酸銅	M1	予防
ザンプロDMフロアブル	アメトクトラジン・ジメトモルフ	45・40	治療
シグナムWDG	ピラクロストロビン・ボスカリド	11・7	治療
フェスティバルC水和剤	ジメトモルフ・銅	40・M1	治療
プロポーズ顆粒水和剤	ベンチアバリカルブイソプロピル・TPN	40・M5	治療
ベトファイター顆粒水和剤	シモキサニル・ベンチアバリカルブイソプロピル	27・40	治療
ランマンフロアブル	シアゾファミド	21	治療
リドミルゴールドMZ	マンゼブ・メタラキシルM	M3・4	治療
レーバスフロアブル	マンジプロパミド	40	治療

FRACコードは殺菌剤の作用機構による分類を示す。

FRACコードの詳細は、<http://www.jfrac.com/fracコード表/>を参照する。

薬剤の使用に当たっては、ラベルの表示事項を守るとともに、他の作物や周辺環境への飛散防止に努める。

5 連絡先

農業総合試験場環境基盤研究部病害虫防除室
電話 0561-62-0085 内線471